

IBM Cloud Satellite™

分散クラウドによる アプリケーションの モダナイズ

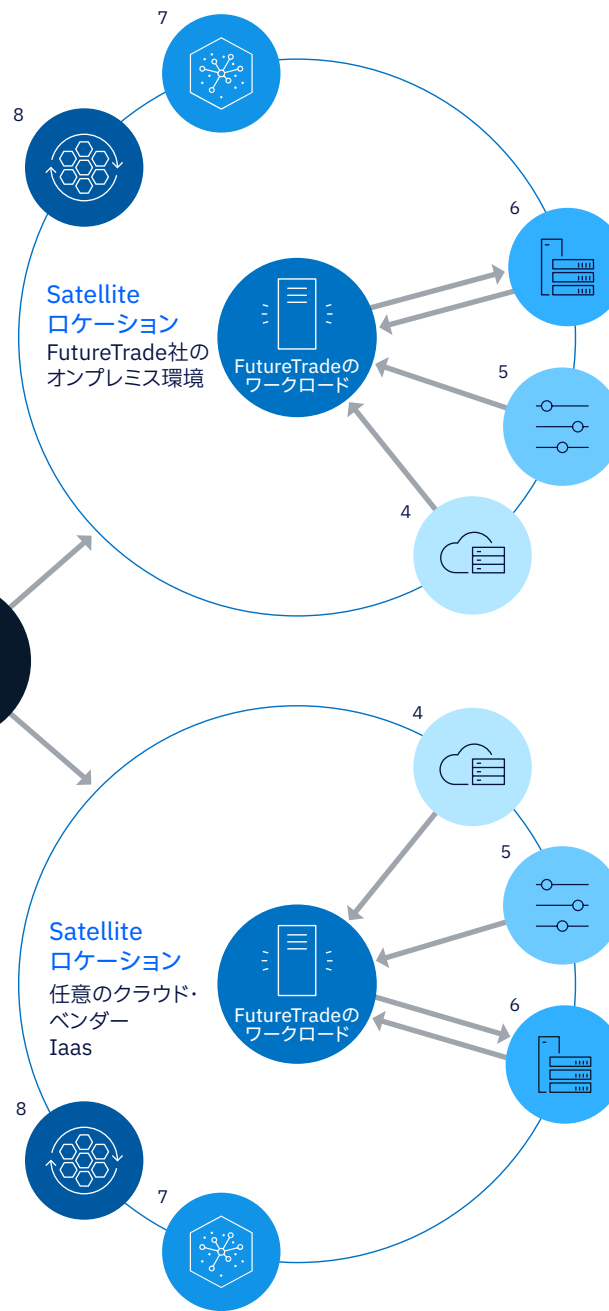
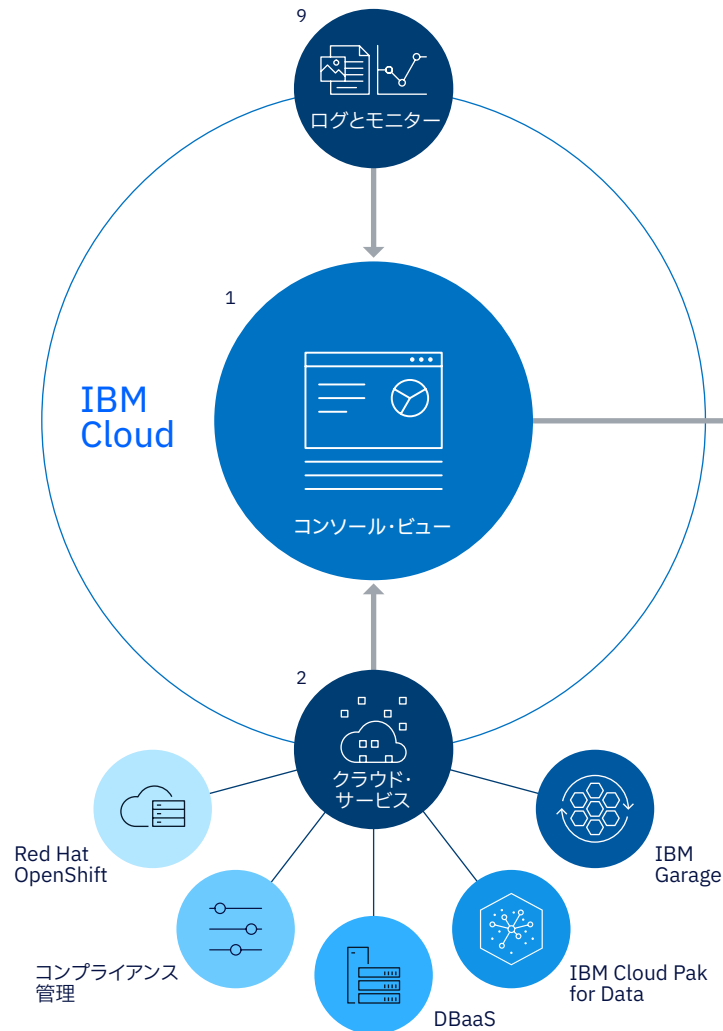
このアーキテクチャー図は、FutureTrade社がIBM Cloud Satelliteによりどのようにソリューションを構築したかを説明しています。

FutureTrade社は、大手金融サービス会社で、株式取引プラットフォーム、バック・オフィス、分析等のアプリケーションを、IBMミドルウェアで実行しています(例:リクエストを処理するためのWeb Sphere Application Server、トランザクション・データを処理するためのDB2、メッセージング用のMQなど)。FutureTrade社のアプリケーションのアーキテクチャーは、従来のスタック型で構築されており、オンプレミスの仮想ハードウェア上で動作します。FutureTrade社の開発チームは、6ヶ月周期で新機能をリリースしています。

金融サービスでは、お客様が資金へのアクセスや操作方法に柔軟性を求める傾向が強まっています。競争力を維持するために、FutureTrade社はその期待に素早く応える必要があります。そのためには、アプリケーションをモダナイズし、独立していながら接続された小規模なサービスに分解する必要があります。

ここで紹介するのは実際のケーススタディーに基づいていますが、掲載されている企業や組織は架空のもので、FutureTrade社も架空です。

IBM Cloud Satellite



1 IBM Cloud Satelliteを活用することにより、単一のコンソールからロケーションが定義でき、サービスのプロビジョニングや、導入されたサービスやアプリケーションの監視と管理を行うことができます。

2 IBM SREチームが、IBMクラウド・サービスをすべて管理しています。FutureTrade社はこれらを利用するだけで、革新的にアプリを更新し、より迅速に提供する事ができるのです。

3 セキュアなトンネルを提供し、ロケーションを接続します。また、インターネットを介さないネットワーク・セキュリティーを実現するためにDirectLinkもご利用になれます。

4 Red Hat OpenShift on IBM Cloudサービスは、FutureTrade社がアプリのモダナイゼーション・プロジェクトを行う際に使用するコンテナ・オーケストレーション・プラットフォームです。

5 Satelliteのサービスには、財務管理機能が組み込まれており、FutureTrade社のモダナイゼーションに伴うリスク軽減に役立っています。

6 新しいアプリの機能の開発と実装に必要なデータベース。

7 FutureTradeが使用するミッション・クリティカルなIBMソフトウェアを管理するためのCloud Pak。

8 IBM Garageの専門家が、FutureTrade社のアプリケーションのモダナイゼーションの一環として、Minimum Viable Product (MVP)の開発を支援しました。

9 すべてのSatelliteロケーションに配備されたサービスやアプリケーションからのログ・データは、単一のコンソール・ビューから一元管理できます。